

2012 SOMNEED Annual Report

認定NPO 法人ソムニード 年次報告書

2012年度（平成24年度）年次報告書 第20期 2012年4月1日～2013年3月31日／創立1993年4月1日

 SOM
NEED



遠い未来を見据え、 日々粘り強く活動する



上智大学教授の田中治彦さんが、共同代表理事の中田豊一と私の共著『途上国の人々との話し方—国際協力メタファシリテーションの手法』を、ロバート・チェンバースの『参加型開発と国際協力—変わるのはわたしたち』に匹敵する本だと評してくださいました。そして、この本が英訳されれば、世界の参加型開発を一歩進めることになるとも。田中治彦さんは、言うまでもなく日本における開発教育の権威、そして英国のサセックス大学のロバート・チェンバース (Robert Chambers) 教授は、参加型開発手法の第一人者として世界的にその功績が知られている方です。

田中治彦さんがこのように評してくださるのが、著者として嬉しいのは言うまでもありませんが、それより勝るのがソムニードの代表としての嬉しさです。なぜなら、私たちの本は、徹頭徹尾ソムニードの現場での経験を基に書かれているからです。別の言葉で言えば、この本が評価されるということは、それはすなわちソムニードの現場での活動が評価されるに等しいということです。ソムニードは、これまでも様々な形で表彰していただきましたが、現場での手法そのものを直截に評価していただいたと言えるのは、田中さんの評だけかもしれません。ただし、ある手法が常にうまくいくという試しは、過去

にはありません。私たちの手法も、例外ではないはずです。現場というものは、常に変化し、思いがけない展開をするものです。どんな手法といえども、不断の工夫と研鑽が必要な所以です。

現在、進行中のプロジェクトは、インドの現場で1年と半年を過ぎようとし、ネパールの現場では、9ヶ月を過ぎたところですが、また、高山でも昨年度から、企業とのコラボレーションで、新たな試みが始まり、新たな年度にはある程度スタイルを確立していくことが求められます。この3カ所すべてにとって、新しい年度は、ゴール直前ではないにしろ、ある意味では、胸突き八丁と言える時期かもしれません。なぜなら、まだ成果と言えるような成果はなく、果たして自分たちがやっていることが、本当に効果があるのか、本当に進むべき方向を向いているのか、しばしば迷う時期だからです。このようなときにこそ、最も手法的な柔軟性と、大局観が必要とされます。

ソムニードには、手前味噌ながら、この大局観があり、そしてそれに沿う形での活動があると自認しています。大局観は、別の言葉で言えば、グランドデザインでしょうか。私たちは、今どのような歴史的な文脈で活動し、どのような社会を目指すべきか、それがグランドデザインです。これは、日々生起する様々な事象にすべて対応できるような処方箋があることを意味しませんが、少なくとも、何にプライオリティ (優先順位) を置くかに迷うことはないはずです。日本は、混迷の時期にあり、早くも3/11の意味を考えること、考え続けることを放棄した感がなきにしもあらずですが、このようなときにこそ、遠い将来を見通す目と、日常的な粘り強さが求められます。このことを胸に、職員、インターン、ボランティア一体となった、ダイナミックな活動を目指しますので、今年度も、ソムニードをよろしく願います。

代表理事

和田 信明

目次

あいさつ
「遠い未来を見据え、日々粘り強く活動する」
共同代表：和田 信明 2

目次 3

ソムニードの20年
「与える」援助から、
地域にある資源を「活用する」地域づくりへ 4

活動1 地域づくり
インド
「村の森、水、土を再生し、活用するプロジェクト、
さらなる広がりを見せています」
「女性たちによる女性たちのための信用金庫、
より多くの女性が参加できるように」 6

活動2 地域づくり
ネパール
「ゴミや排水で汚れた川の再生に取り組む、
ネパールでの新プロジェクトがスタート。
学校から家庭、地域へと活動を広げていきます」 8

活動3 地域づくり
高山 8

「地域の課題は世界の課題」海外での学びを
国内に活かし、岐阜県飛騨地域で」

活動4 地域づくり
セネガル 10
「ソムニードの活動を新たな地域へ！」

活動5 人づくり
人材育成 11
「海外、そして日本の現場で、人づくりに取り組んでいます」

組織 12

会計 2012年度財務状況 14

ご支援・協働していただいたみなさま 16



ソムニードの20年



「与える」援助から、地域にある資源を「活用する」地域づくりへ

インドの友人からの呼びかけに応じて設立

1993



ソムニード（当時の団体名称「サンガムの会」）は、和田信明（代表理事）の友人が代表を務めるインドのNGOから支援要請を受けて設立されました。

1993年

・「サンガムの会」設立。
南インドの農村部で少数民族、アウトカーストを対象としたプログラム（植樹事業、貧困者のための収入向上事業、夜間識字教室など）に対する支援を開始



インド、オリッサ州のはげ山



「貧困とは」「参加型とは」「自立とは」
—活動のあり方を模索—

自分たちの活動スタイルに疑問を抱き、さまざまな試行錯誤を繰り返しました。日本からの専門家招へいによる研修や調査もおこなう一方で、村の本当の課題を引き出す対話術を編み出しました。



斜面植林の技術を伝える飛騨の林業家

1998年

・高山の森林専門家による第一次調査開始
・測量専門家による調査と活動地域計測及び地図作製
その後、数年にわたり現地団体へのトレーニングを行う

1999年

・NPO法人として設立、認証。「ソムニード・サンガム」に改称

2001年

・ソムニード・インド事務所開設

2003年

・団体名称を「ソムニード」に変更



周りの環境を壊さない
ミニ水力発電

地域の課題は世界の課題。
地域コミュニティを主役とした
プロジェクトを開始

カウンターパートを持たない直接オペレーションに切り替え、南インドの都市スラム、ネパールでのプロジェクトを開始。“何かを与える”のではなく、地域に存在する様々な資源を活用する方法を考えました。また、日本でも地域づくりに取り組みはじめ、飛騨地域でのプロジェクトを開始しました。

2004年

・インドのスラム街の女性たちと共にマイクロファイナンス（小規模融資）プロジェクトを開始



2007年

・インドの農村の人々と共に、小規模流域（マイクロウォーターシェッド）管理と森林再生を通じたコミュニティ開発プロジェクトを開始
・ネパールの農村の人々と共に、森林を保全するためのプロジェクトを開始
・日本（飛騨地域）で、在住中国人花嫁への生活支援活動を実施



培った方法論を発信・共有し、活動を
新たなテーマ、新たな地域へ

プロジェクト現場で培った方法論を研修という形で共有はじめると共に書籍にまとめて広く発信。「地域の課題は世界の課題」を実践するソムニードの活動に注目が集まりつつあります。この20年で培った経験、方法論をもって新たなテーマ、新たな地域での取り組みをはじめます。

2010年

・プロジェクトで培った方法論を著した書籍『途上国の人々との話し方—国際協力メタファシリテーションの手法』（和田信明・中田豊一共著、みずのわ出版）を出版



2011年

・国税庁の認定を受け「認定NPO法人ソムニード」に

2012年

・ネパールの首都カトマンズに住む人々と共に、バグマティ川の浄化と環境教育で地域のつながりを取り戻す事業を開始
・セネガルの自然と暮らし、社会構造、開発援助の状況を調査
・飛騨高山で企業と協働してコミュニティスペース「まちスポ飛騨高山」の立ち上げ・運営を開始



受賞歴

- 2008年：岐阜県（国際部門）功労者知事表彰
- 2009年：第49回「消費者のためにあった広告コンクール」金賞
- 2010年：第22回毎日国際交流賞
- 2011年：第7回JICA理事長表彰
- 2011年：高山市創75周年記念国際交流功労表彰

活動1 地域づくり

インド

アーンドラ・プラデシュ州北部、スリカラム県内
アーンドラ・プラデシュ州ビジャカパトナム市



多角的資源活用農法 (DIFS) を通した農地利用と集水地域保全普及一発展型地域住民主導マイクロウォーターシェッド・マネージメント

**村の森、水、土を再生し、
活用するプロジェクト、
さらなる広がりを見せています。**

限られた自然資源を守り、活用していくことは、農村で暮らし続けていくためのいちばんの基礎となります。

ソムニードは、2007年からアーンドラ・プラデシュ州北部、スリカラム県で、個人ではなく流域 (ウォーターシェッド) に暮らす人々が、一緒に自然資源の再生・管理や持続的な利用をおこなうことをめざしたプロジェクトを実施しています。

資源を「守る」、そして効率的に「使う」へ

村全体で自然資源の再生・管理をおこなう技術を普及すべく、2007年よりプロジェクトに参加している村人の中から15人の指導員が誕生しました。指導員は、今まで自分が得た技術を指導するコツをソムニードから学び、近隣の村々で研修をおこないました。

また、水や土を効率的に活用し、1年を通してよりたくさんの種類の作物を育てるために、農業を見直す研修や視察をおこないました。

村人たちによる農業の改善へ

2013年度はいよいよ農業の改善を実践します。栽培活動や、収穫量、収支の記録なども村人たち自身でおこなえるよう、研修を実施します。

また、指導員による研修や視覚教材の作成を通して、資源管理のスキルを普及・拡大させていきます。



プロジェクトに参加する村が増えています!

2007年 5村 ▲



2012年 15村 ▲▲▲





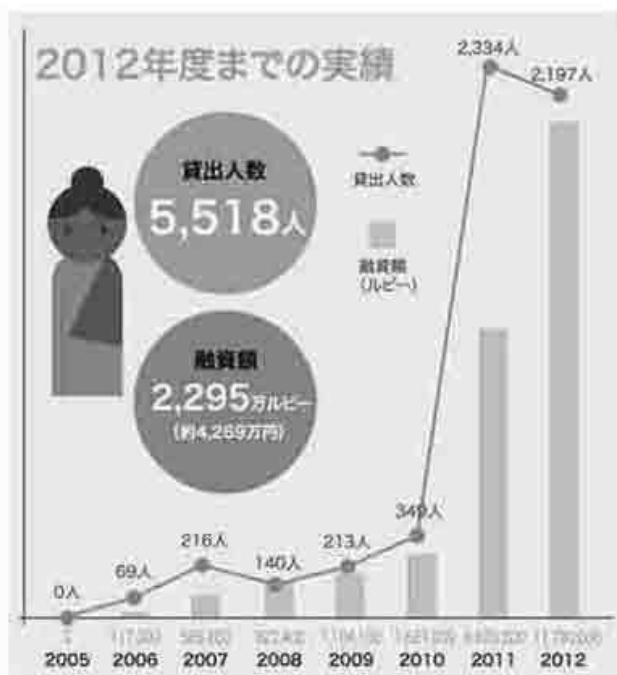
スラム女性によるマイクロファイナンスを通じた相互扶助
女性たちによる女性のための信用金庫、
より多くの女性が参加できるように。

スラムに住む女性が自分たちで運営する小さな信用組合、
ビシャカ・ワニタ・クランティ (VVK)。ソムニードは、
VVK がスムーズな組織運営・融資業務をできるよう、
ソフトウェア開発支援やスキルアップ研修を実施しています。

組合の規模が拡大! 中長期的な視点をもった経営へ

2012年度は組織運営・業務分析についての研修の結果、
よりきめ細かいサービスを会員に対して提供できるよう、
さまざまな見直しがおこなわれました。たとえば、スタッフ
の人数を増やして、会員が貯金や融資の受取・返済する
際にスムーズに対応できるようにした結果、組合を退会す
る女性が減り、年間の融資額も大幅に増加しました。
このように組合の規模が拡大する中、中長期的な視点を

もった経営をおこなう必要があります。2013年度も、
VVK の役員やスタッフに対する研修を必要に応じて実施
します。



ソムニードの地域づくり
オラたちの森・水・土。
自分で考えて、計画して、
実行する

2007年8月に、5か村で始まったマイクロウオーター
シエッド・プロジェクト。その内の一つのゴディヤバドゥという
村は、マレ・サワラ族という山岳少数民族26世帯が暮らして
います。

当時、村のため池は「ため池」とは名ばかり、沼か空き地
か分かりませんでした。50年ほど前からあったのですが、水
は無きに等しく、稲作も雨に頼るしか術はありませんでした。
「水がないなあ」「雨が降らないかなあ」

空をずっと見上げていた村人たちの姿は、毎年雨季になる
とみられ、その中には村の有力者のひとりであるラマラオも
いました。一旦雨が降ると、水は勢いよく山の土を削り落し、
川となって村の外へと流れ出ていきます。

ただ流れていく水を眺めているのではなく、溜めて使えるよ
うにして、そして乾いた土を潤し、木を育て作物を栽培した
いーラマラオたちの願いに対して、ソムニードは「考えて実
行する力」を身に付けられるよう、研修に次ぐ研修をおこ
なってきました。

当初は、「オラは貧乏で何にもない。何かもらえたら嬉し
いんだけど？」とあからさまに手を出して、ソムニードに接
触してきたラマラオ。しかし、1年2年と研修に参加し、自
分たちのため池も整備していく中で、そのような発言は無く
なりました。ため池も、今では一年中水をたたえています。
ラマラオの田んぼでも、水の管理がしやすくなり、米の収穫
量が18倍に増えました。更に、裏作としてヒマワリや豆も栽
培しています。そしてある日、ラマラオが私たちに自慢げに
見せてくれました。

「オラが自分で作ったんだ」

それは、自分で作った小さなため池でした。水を溜めるに
はどこに作るか、どれだけの大きさが必要か、全て自分で考
えて作っていました。ラマラオは、今では、村の青年リーダ
ーを支える縁の下の力持ち。青年リーダーが村人の意見を
集めて決断しなければならぬ時は、必ず「それで大丈夫」と、
リーダーの背中を押しています。



ゴディヤバドゥ村
ラマラオ氏

活動2 地域づくり



ネパール カトマンズ郡北部 ジョルパティ地区、ポーダナート地区



バグマティ川でのフィールド研修

環境教育と地域住民主体の環境保全活動を通じた
地域コミュニティの強化

**ゴミや排水で汚れた川の再生に取り組む、
ネパールでの新プロジェクトがスタート。
学校から家庭、地域へと活動を広げて
いきます。**

ネパールの首都カトマンズを
流れる「聖なる川」バグマ
ティ川。

この数十年急激に人口が
増加し、ゴミや排水も膨大
な量に。行政の対応も追いつ
かず、バグマティ川はゴミ
だらけ、汚水だらけの川にな
ってしまいました。美しいバ
グマティ川の再生のために、

地域住民が自分たちですべきことは何か。カトマンズの
住民たちと一緒に都市の環境問題に取り組みます。
まず舞台となるのは学校。そこから家庭、地域へと活動を
広げます。



2012年、新しいプロジェクトがスタート

2012年度は、ネパール政府による事業承認が下り、プ
ロジェクトを本格的に開始しました。まずは、現地の環境
汚染・排水・廃棄物処理状況や、小中学校の環境教育
について調査しました。小中学校の環境教育では地域の
環境について一切取り上げておらず、授業の進め方も教科
書をもとに先生が生徒に一方的に講義をしているというこ
とがわかりました。

そこで、小中学校の環境教育を担当する先生への研修を
実施しました。地域の40の学校からのべ120人の先生
が参加し、バグマティ川の問題を授業に取り入れられるよ
う、川や周辺に生息する動植物への理解を深めています。
参加者が自分で考える、ソムニード独自の研修。それに刺
激を受けて、自分の授業のやり方を変えたいと模索しはじ
める先生も出てきています。

学校、家庭、そして地域と一緒に環境保全に取り組めるように
バグマティ川再生を中心とした地域の環境の課題を子ども
と大人が共に学び、川の再生のために、地域住民が一人
となり環境保全を日常的におこなう状況をめざします。

2013年度は先生や地域住民への研修をおこない、生徒
も参加した環境教育の副読本を作成します。また、小中
学校のPTAを対象に、家庭でできる環境保全についての
研修も実施します。



クラスルームでの教員向け研修

活動3 地域づくり



高山 岐阜県高山市

住民による活動を育成・支援し、地域活性化につなげる事業

「地域の課題は世界の課題」

海外での学びを国内に活かし、岐阜県飛騨地域でも地域づくりの活動をおこなっています。

地域の課題を探り、地域の資源を生かした活動を支援

人口減少や少子高齢化が進む、高山市の中山間地域。ソムニードは、2011年度より高山市上宝町に集落支援員を派遣しています。2012年度は支援員が集落の巡回をおこない、現状と課題の把握に取り組みました。2013年度は現状把握とともに、具体的な地域活性化の仕組みづくりに取り組みます。

また、ソムニードは地域のお母さんたちによるグループを支援。このグループが開発した食物アレルギー対応食品の販路確保のための支援をおこないました。結果、高山市の老舗スーパーでの販売コーナーの設置につながりました。

企業との協働で、地域活性化をサポート

高山市内のショッピングセンターに地域活性化をサポートする「まちスポ飛騨高山」がオープン。ソムニードは大和リース株式会社との協働により、運営主体となるNPO法人「まちづくりスポット」を設立しました。2013年度は、より多くの方に利用していただくための広報活動に取り組みます。



まちスポ飛騨高山でのイベントの様子

共に創る。共に生きる。

大和リース株式会社

取締役上席執行役員

森内 潤一

大和ハウスグループは、幅広い事業を通じて、人が心豊かに生きる社会の実現を目指すと共に、「共創共生」をテーマにCSR活動を推進しています。

その中であって、今回の取り組みはハウスグループにとっても初めての取り組みです。過去にNPO団体に寄付を行ったことはあっても、今回のように実際に協働し、育成していく立場になった事はとても大きなアクションだったと思います。先ずは、また、産声を上げたばかりですが、人材育成です。企業人在りながらNPO活動が出来る人材、また逆に、NPO人在りながら企業の風土を持って活躍できる人材を育成したいと思っています。私流に言わせて頂ければ、パラレルキャリア（現在の仕事以外の仕事を持つことや非常利活動に参加すること）が可能なNPO法人にして貰いたいと思います。継続、自立できるNPO法人にしてもらいたいです。

二つ目はフレスポ飛騨高山が単なる「買い物場」だけではなく、「地域交流拠点」コトの場」へと進化させ、そのノウハウ共に取得し、今後新たに開発するSCにも取り入れ、全国各地に多くのまちスポを生み出させたいと思います。

三つ目は認定NPO法人にすることです。多くの方々の支援を得ること等、中間支援団体としては難しいかもしれませんが、是非ともチャレンジしてもらいたいです。企業が支援しやすいNPO法人を二つでも早く作りたいたいです。

何よりも、永遠に続けることが大切です。



活動4 地域づくり



セネガル ダカール、ルーガ州ほか

西アフリカ案件形成調査

ソムニードの活動を新たな地域へ！

セネガルでの新たな活動にむけて調査を開始

日本の開発援助があまり入っておらず、かつ人々の生活状況が著しく厳しいとされる西アフリカ。ソムニードは、新たにこの地域で活動を展開していくことを組織決定しました。2012年度は予備調査として、共同代表の中田豊一をセネガルに派遣しました。約3週間にわたる調査で、セネガルの自然と暮らし、社会構造、開発援助の状況などを把握することができました。2013年度はプロジェクト実施にむけて、活動内容や方法、地域を具体的に絞り込んでいくための調査をおこないます。



セネガルの村の人たちと

活動5 人づくり

人材育成



インド、コミュニティ・ファシリテーション研修

海外、そして日本の現場で、人づくりに取り組んでいます。

地域の人と対等な関係性をつくり、現場の課題を正確にとらえるために、ソムニードが長年積み重ねてきた経験と手法。これらを伝え、実践するためのさまざまな機会を提供しています。

■経験を伝える

講師派遣、相談対応

2012年度は大学の講義や社員研修など計12件にスタッフ・理事を派遣し、のべ500人にソムニードの活動や経験を伝えました。2013年度もさまざまな講演依頼に積極的にお応えします。また、外務省 NGO 相談員として、国際協力やボランティア、各国の現地情勢などの質問や相談にもお答えします。

■手法を広める

対話型ファシリテーション講座

シンプルな対話を通して当事者主体の学びと気づき、行動変化を促す対話型ファシリテーション。ソムニードが国際協力の現場で培ってきた、この手法を広める講座です。

2012年度は基礎編を6回、中級編を4回実施しました。基礎編は毎回定員を超える人気講座になりつつあります。また、講座修了者を対象とした自主勉強会への協力や Facebook ページの運営をおこないました。2013年度は講座終了後のフォローアップをさらに充実させるとともに、新たにフィールド研修にも取り組みます。

■現場で経験する

インド・コミュニティファシリテーター研修

インドのマイクロウォーターシェッド・プロジェクトの現場に触れ、実践を通してコミュニティ開発に必要な視点やスキルを学ぶ研修です。2012年度はのべ5人が参加。2013年度も12月、2月の2回開催を予定しています。

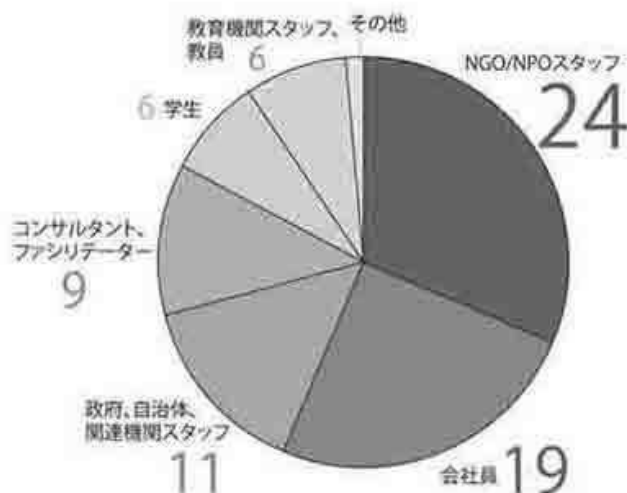
視察・フィールドワークプログラムの受け入れ

2012年度は NGO / NPO や JICA からのフィールドワークプログラムを受け入れました。高山市でのフィールドワークの様子を日本語・英語のムービーにまとめ、Youtube で配信しています。



対話型ファシリテーション講座

■対話型ファシリテーション講座 参加者属性



組 織

2012 年度はより多くの方が活動を知り、参加していただくため、ソーシャルメディアや動画を使った情報発信といった新たな取り組みをおこないました。

また、団体内の労働環境の整備や、業務フローの改善に取り組みました。



●デリー ●カトマンズ

●ムンバイ ●ビシャカバトナム

チェンナイ●

■ネパール事務所（カトマンズ）
首都カトマンズでプロジェクトを実施しています。

和田 信明：代表理事／海外事業部長
池崎 翔子：海外事業コーディネーター
奈良原 志磨子：海外事業コーディネーター



■インド駐在先：ソムニード・インディア
（アーンドラプラデシュ州ビシャカバトナム）
農村と都市スラムの 2 か所でプロジェクトを実施。また、
農村の現場を舞台に、コミュニティファシリテーター研修
も実施しています。

前川 香子：事務局次長／海外事業部チーフ
賈方 博章：海外事業コーディネーター



設立 20 周年をむかえる 2013 年度は、これまでの活動をじっくりふりかえり、今後のめざすべき方向性と活動のあり方をみなさまに発信します。

■関西事務所（神戸）

団体内外とのコミュニケーションを統括。
また、海外プロジェクトの後方支援をしつつ、
対話型ファシリテーション研修を企画運営しています。

宮下 和佳：事務局長代行
田中 十紀恵：コミュニケーション



■インターンシップ

2012 年度は高山事務所で
1 名、関西事務所で 5 名の
インターンを受け入れました。
2013 年度も 7 名のインターン
が学びたいテーマに応じて
担当業務を決め、取り組ん
でいます。



■本部事務局（高山）

組織全体の統括および総務・労務・会計と同時に、
飛騨高山での視察受け入れなどの活動を担当していま
す。

大塚 由美子：事務局長
大西 廣子：会計、労務
上清水 温子：総務、コミュニケーション
ワダ アスカ：コミュニケーション



■（特活）まちづくりスポット

ショッピングセンター「フレスポ飛騨高山」内の交流ス
ペース「まちスポ飛騨高山」の運営や地域活性化、
NPO 活動の支援に取り組んでいます。

竹内 ゆみ子：代表理事
田邊 友也：事務局長、事業推進マネージャー
谷前 久美子：経営管理マネージャー
小柳津 仁：コミュニケーション

■役員（2013 年 7 月現在）

理事

代表理事：和田 信明（特活）ソムニード海外事業部長
代表理事：中田 豊一 参加型開発研究所 所長
副代表理事：山田 貴敏 笠原木材株式会社 代表取締役社長
専務理事：竹内 ゆみ子（特活）ソムニード国内事業部長
常務理事：大塚 由美子（特活）ソムニード事務局長
理事：浅野 宜之 大阪大谷大学 人間社会学部 教授
理事：直井 晃一 斐太石油株式会社 取締役総務部長
理事：長畑 誠 一般社団法人あいあいネット 専務理事、明治大学大学院ガバナンス研究科 教員
理事：和仁 一博 農業生産法人（有）まんま農場 取締役
理事：小森 忠良（株）十六銀行 監査部主任検査役

■監事

渡辺 成洋 税理士
高野 元樹（特活）ボラみみより情報局 代表

活動計算書 2012年4月1日～2013年3月31日まで (単位:円)

科目	金額	
I 経常収益		
1. 受取会費		
正会費	659,000	659,000
2. 受取寄付金		
受取寄付金(個人)	4,649,261	
受取寄付金(企業・団体)	1,541,935	6,191,196
3. 受取助成金等		
受取助成金	0	
受取助成金	400,000	
受取助成金	0	400,000
4. 事業収益		
自主事業収益	2,968,209	
JICA受託事業収益	43,711,735	
政府・自治体受託事業収益	7,947,764	
企業等受託事業収益	13,050,000	67,677,708
5. その他収益		
雑収入	9,000	
受取利息	473	9,473
経常収益計		74,937,377
II 経常費用		
1. 事業費		
(1) 人件費		
給料手当	32,867,910	
法定福利費	4,478,548	
人件費計	37,346,458	
(2) その他経費		
期首棚卸高	1,524,135	
減損金	984,150	
通信費	829,293	
消耗品費	1,327,338	
旅費交通費	6,262,668	
印刷製本費	1,213,878	
賃借料	830,867	
海外事業費	11,981,578	
海外事業共通費	4,349,500	
研修費	66,413	
支払手数料	799,802	
保険料	528,771	
租税公課	1,658,469	
水道光熱費	140,498	
広報費	567,077	
諸会費	80,386	
新聞図書費	183,614	
福利厚生費	196,101	
支払利息	12,899	
雑費	727	
雑損失	295,534	
減価償却費	598,194	
期末棚卸高	△918,790	
その他経費計	33,513,080	
事業費計		70,859,538
2. 管理費		
(1) 人件費		
給料手当	2,939,832	
法定福利費	481,084	
人件費計	3,420,916	
(2) その他経費		
通信費	63,669	
消耗品費	19,238	
旅費交通費	96,687	
印刷製本費	73,504	
賃借料	72,033	
研修費	2,087	
支払手数料	30,652	
保険料	471	
租税公課	162,281	
水道光熱費	8,610	
広報費	7,453	
諸会費	6,634	
新聞図書費	7,071	
福利厚生費	21,065	
支払利息	1,386	
雑費	73	
雑損失	91,742	
減価償却費	64,257	
その他経費計	670,912	
管理費計		4,091,828
経常費用計		74,951,366
当期正味財産増減額		△13,989
前期繰越正味財産額		△1,108,547
次期繰越正味財産額		△1,122,536

財産目録 2013年3月31日現在

(単位:円)

科目	金額	
I 資産の部		
1. 流動資産		
(1) 現金預金	6,474,140	
手形振替	49,717	
大塚共立銀行高山支店①	2,277,842	
大塚共立銀行高山支店②	20,177	
大塚共立銀行高山支店③	159,401	
大塚共立銀行高山支店④	60,624	
三菱東京UFJ銀行名古屋駅前支店	170,773	
瑞穂信用組合石浦支店①	54,370	
瑞穂信用組合石浦支店②	100	
十六銀行高山駅前支店	82,527	
十六銀行高山支店	3,055,811	
瑞穂信用組合石浦支店	34,505	
ゆうちょ銀行振替口座	526,453	
②未収金	670,275	
会費等自動引落(3月分)	48,000	
事業収入・外債借入金(3月分)	375,800	
寄付金収入(3月分)	146,475	
③権利資産	918,790	
書籍(途上国の人々との話し方)	918,790	
④収払金	(188,311)	
関西事務所経費	188,311	
流動資産合計		8,151,516
2. 固定資産		
(1) 有形固定資産	(226,774)	
什器備品	226,774	
固定資産合計		226,774
資産合計		8,378,290
II 負債の部		
1. 流動負債		
(1) 短期借入金	3,000,000	
十六銀行手形貸付	3,000,000	
②未払金	5,486,333	
経費 次年度支払分	1,186,097	
3月分雑損処分	2,879,760	
社会保険料	1,217,308	
労働保険料	203,168	
③前受金	(96,000)	
正会費 次年度分	96,000	
④未払消費税	(576,400)	
未払消費税	576,400	
⑤未払法人税等	(72,000)	
前払法人税等戻付税	72,000	
⑥預り金	(270,093)	
源泉所得税	219,793	
社会保険料	0	
労働保険料	0	
住民税	50,300	
流動負債合計		9,500,826
負債合計		9,500,826
正味財産		△1,122,536

貸借対照表 2013年3月31日現在

(単位:円)

科目	金額	
I 資産の部		
1. 流動資産		
(1) 現金預金	6,474,140	
②未収金	670,275	
③権利資産	918,790	
④収払金	(188,311)	
流動資産合計		8,151,516
2. 固定資産		
(1) 有形固定資産		
什器備品	226,774	
有形固定資産計	226,774	
固定資産合計		226,774
資産合計		8,378,290
II 負債の部		
1. 流動負債		
(1) 短期借入金	3,000,000	
②未払金	5,486,333	
③前受金	96,000	
④未払消費税	576,400	
⑤未払法人税	72,000	
⑥預り金	270,093	
流動負債合計		9,500,826
負債合計		9,500,826
III 正味財産の部		
前期繰越正味財産		△1,108,547
当期正味財産増減額		△13,989
正味財産合計		△1,122,536
負債及び正味財産合計		8,378,290

■財務諸表の注記

1. 重要な会計方針

財務諸表の作成は、NPO法人会計基準(2010年7月20日 2011年11月20日一部改正 NPO法人会計基準協議会)によっています。

- (1) 固定資産の減価償却の方法
有形固定資産は、法人税法の規定に基づいて定額法で償却をしています。
- (2) 棚卸資産の評価の方法
棚卸資産は、最終仕入原価法で評価をしています。
- (3) 消費税等の会計処理
消費税等の会計処理は、税込経理方式によっています。

2. 事業別損益の状況

事業別損益の状況は以下の通りです。

(単位:円)

金 額	①地域開発及び地域自立支援に係る事業	②人材育成及び研修生受入に係る事業	③調査・研究に係る事業	④国際理解の推進と啓発に係る事業	⑤地域活動支援に係る事業	⑥その他本法人の目的を達成するために必要な事業	事業部門計	管理部門	合 計
I 経常収益									
1 受取会費	0	0	0	0	0	0	0	659,000	659,000
2 受取寄付金	77,725	0	355,000	0	0	0	432,725	5,758,471	5,191,196
3 受取助成金等	0	0	0	0	0	0	0	400,000	400,000
4 事業収入	46,351,325	4,977,850	0	3,298,533	13,050,000	0	67,677,708	0	67,677,708
5 その他収益	0	0	0	0	0	0	0	9,473	9,473
経常収益計	46,429,050	4,977,850	355,000	3,298,533	13,050,000	0	68,110,433	6,826,944	74,937,377
II 経常費用									
III 人件費									
給料手当	10,260,487	2,989,511	0	1,341,018	9,276,894	0	32,867,910	2,939,832	35,807,742
法定福利費	3,067,806	326,933	0	219,449	864,360	0	4,478,548	481,084	4,959,632
人件費計	22,328,293	3,316,444	0	1,560,467	10,141,254	0	37,346,458	3,420,916	40,767,374
IV その他経費									
期首繰加高	0	1,524,135	0	0	0	0	1,524,135	0	1,524,135
諸謝金	327,000	623,739	0	0	33,411	0	984,150	0	984,150
通信費	424,498	161,318	1,650	29,463	212,364	0	829,293	63,669	892,962
消耗品費	527,050	89,353	0	22,366	688,069	498	1,327,336	19,238	1,346,574
旅費交通費	4,552,965	656,562	347,354	122,543	583,242	0	6,262,666	96,687	6,359,353
印刷製本費	718,623	49,952	0	33,529	411,774	0	1,213,878	73,594	1,287,472
賃借料	477,138	120,282	0	32,858	200,609	0	830,887	72,033	902,920
海外事業費	11,981,578	0	0	0	0	0	11,981,578	0	11,981,578
海外事業共同費	4,349,500	0	0	0	0	0	4,349,500	0	4,349,500
研修費	39,799	1,416	0	951	24,247	0	66,413	2,087	68,500
支払手数料	528,563	144,428	5,615	14,086	107,110	0	799,802	30,652	830,454
保険料	475,973	27,749	5,420	214	19,415	0	528,771	471	529,242
租税公課	1,155,242	110,283	0	76,025	315,919	0	1,658,469	162,281	1,820,750
水道光熱費	54,908	5,851	0	3,928	75,811	0	140,498	8,610	149,108
広報費	47,524	6,084	0	3,399	611,090	0	587,077	7,459	574,530
誌会費	55,051	5,867	0	3,938	15,510	0	80,366	8,634	89,000
新聞図書費	45,190	4,803	12,375	3,224	118,031	0	183,614	7,071	190,685
福利厚生費	134,329	14,310	0	9,609	37,847	0	196,101	21,065	217,166
支払利息	8,836	941	0	632	2,490	0	12,899	1,385	14,284
雑費	497	55	0	37	138	0	727	73	800
減損失	202,440	21,574	0	14,482	57,038	0	295,534	31,742	327,276
減価償却費	409,762	43,669	0	29,311	115,452	0	598,194	64,257	662,451
期末繰加高	0	△918,790	0	0	0	0	△918,790	0	△918,790
その他経費計	26,516,456	2,692,547	372,414	400,598	3,530,567	498	33,513,080	670,912	34,183,992
事業費計	49,844,749	6,008,991	372,414	1,961,065	13,671,821	498	70,859,536	4,091,828	74,951,364
当期経常増減額	△2,415,699	△1,031,141	△17,414	1,337,468	△621,821	△498	△2,749,105	2,735,116	△13,989

3. 固定資産の増減内訳

固定資産の増減は以下の通りです。

(単位:円)

科 目	期首取得価額	取 得	減 少	期末取得価額	減価償却累計額	期末帳簿価額
有形固定資産						
什器備品	347,550	889,225	989,727	899,225	△662,451	226,774
合 計	347,550	889,225	989,727	899,225	△662,451	226,774

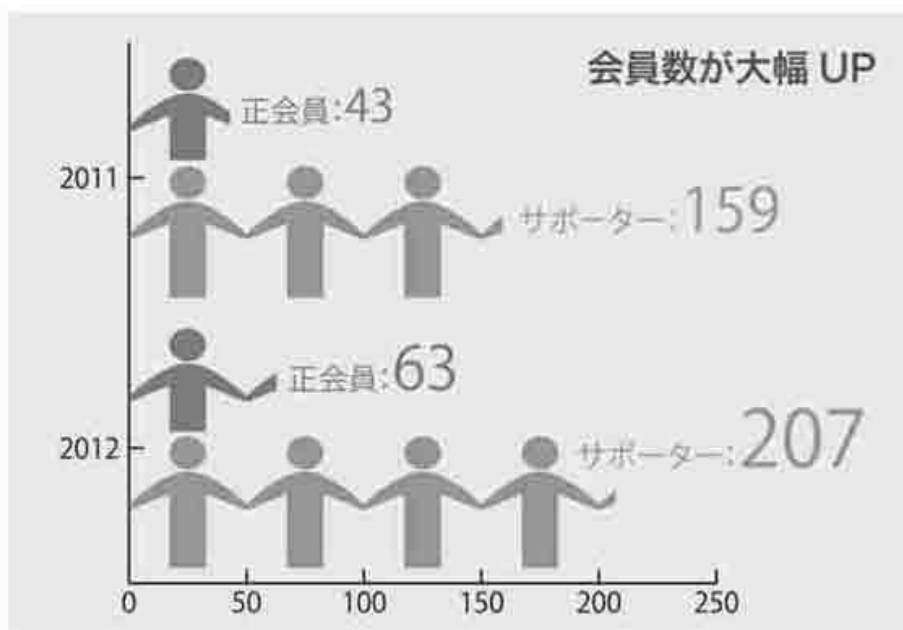


ご支援・協働していただいたみなさま

2012年度も多くの方にソムニードの活動をご支援、また協働していただきました。心より感謝申し上げます。

会員のみなさま

会 員 63人
サポーター 207人



企業・団体・教育機関からのご支援

(五十音順、敬称略)

株式会社池村商会
株式会社大丸
笠原木材株式会社
健栄住宅商事株式会社
国府赤十字奉仕団
山都印刷株式会社
株式会社駿河屋魚一
大和リース株式会社
有限会社高山ビジネスマシン
学校法人飛騨学園高山西高等学校
中部電力株式会社
NPO 法人中部リサイクル運動市民の会
株式会社電腦職人村
飛騨信用組合
飛騨産業株式会社
株式会社ビデオエイベックス
平安楽
ベストウエスタンホテル高山
有限会社美築堂 (みすずどう)
道の駅はじめ
ヤスタペンション

行政・政府機関との協働

高山市 (集落支援員事業)
岐阜県 (過疎地域集落活性化支援モデル事業)
JICA (草の根技術協力事業)
外務省 (NGO 相談員)

2012年度(平成24年度)ソムニード年次報告書

発行者:特定非営利活動法人ソムニード
発行責任者:代表理事 和田信明、中田豊一
発行日:2013年7月20日

■本部

〒506-0032
岐阜県高山市千鳥町900-1 飛騨・世界生活文化センター内
電話:0577-33-4097(代)
FAX:0577-36-5471
E-mail:info@somneed.org
<http://www.somneed.org>

■関西事務所

〒650-0022
兵庫県神戸市中央区元町通6-7-9 神戸元町NPOポート内
電話/FAX:078-360-3607
E-mail:west@somneed.org
<2013年8月より移転>
〒662-0856
兵庫県西宮市城ヶ堀町2番22号 早川総合ビル3F
TEL・FAX:0798-31-7940